

## 平成 27 年度 第 1 回 新潟市立亀田図書館協議会

日時：平成 27 年 7 月 1 日（水）午後 1 時 30 分～

会場：亀田地区公民館 講座室 1

### 次第

#### 1 開会

#### 2 館長あいさつ

#### 3 議事

##### (1) 報告事項

##### ① 平成 26 年度の報告

(資料 1～5)

##### ② 平成 27 年度計画について

(資料 6～7)

##### (2) 協議事項

江南区の図書館登録率向上について

##### (3) その他

平成 26 年度新潟市立図書館指標別事業評価シートについて

(資料 8)

#### 4 閉会

出席者 委員：柳委員 捧委員 佐藤委員 比企委員 服部委員

田村委員 村山委員 (計 7 名)

(欠席：石塚委員 遠藤委員)

事務局：横山館長 小松原主査

傍聴者 1 名

■ 平成 27 年度 第 1 回 新潟市立亀田図書館協議会

日 時：平成 27 年 7 月 1 日（水）午後 1 時 30 分～

会 場：亀田地区公民館 講座室 1

（司 会）

皆様おそろいですので、これから平成 27 年度第 1 回新潟市立亀田図書館協議会を始めさせていただきますと思います。

本日は、大変足下の悪い中おいでいただきまして、ありがとうございます。本来ですと進行は庶務担当の佐藤が行うところなのですが、佐藤は所用のため本日欠席させていただいておりますので、私が代わって行います。よろしく願いいたします。

では、資料の確認をさせていただきます。あらかじめ郵送でお配りしたものに加えまして、本日、茶封筒の中に入れたもの、1 が席次、2 が名簿、3 が新潟市立亀田図書館という青いパンフレット、4 が絵本のある子育て、赤ちゃんと一緒にというブックスタートについてのパンフレットのコピーです。5 が貸出申込書です。6 の緑色のものが新しい図書館の利用案内となります。

申し訳ございませんが、資料の差し替えをお願いしたいと思います。茶封筒の中に入っておりますもので、平成 27 年度当初予算というものです。資料 7 となります。右肩に訂正とありますものと差し替えていただきたいのと、それから封筒の外に置いておきました評価シートのナンバー 2 の差し替えをお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

はじめに、このたび、委員の交代がございました。学校教育で江南区小学校長会から選出されておりました、大淵小学校の松葉先生が転勤されましたので、本日ご出席いただいております後任の大淵小学校長様へ交替するということでございます。

ここで、捧様に委嘱状の交付を行いたいと思います。お名前をお呼びしますので、その場でご起立ください。

捧俊夫様。新潟市立亀田図書館協議会委員に委嘱します。委嘱期間は平成 28 年 3 月 31 日までとします。平成 27 年 4 月 1 日。新潟市教育委員会。

よろしく願いいたします。

（捧委員）

よろしく願いします。お世話になります。

（司 会）

それでは、捧委員から自己紹介をいただいてもよろしいでしょうか。

（捧委員）

初めまして。4月より大淵小学校の校長を仰せつかっております、捧と申します。前任校は亀田西小学校で、佐藤さんとは同僚ということで、大変懐かしく思っております。江南区に縁が深く、また同じ江南区の学校に赴任いたしましたので、今後ともよろしくご指導のほうお願いいたします。

(司 会)

続きまして、亀田図書館の職員の紹介をさせていただきます。

自己紹介をさせていただきますが、私は館長の横山敦子と申します。今年で2年目となりました。よろしくお願いいたします。

(事務局)

今年度、亀田図書館に移動してまいりました小松原貢と申します。真柄の後任になります。皆さん、よろしくお願いいたします。

(事務局)

囑託職員の矢田部と申します。よろしくお願いいたします。

(司 会)

このほか、本日は欠席させていただいておりますけれども、佐藤、飯島、永村、大滝、久保田という職員がございます。久保田は現在、育児休業中となっております。職員に加えまして、夜間、土日、祝日の臨時が7名おります。全部で14名で亀田図書館の業務を行っております。

以上で職員の紹介を終わります。矢田部につきましては他の業務がございますので、ここで失礼いたします。

本日の会議なのですけれども、遠藤委員と石塚委員から欠席のご連絡をいただいております。したがって、本日は出席委員が7名となります。新潟市立図書館協議会運営規則第4条に委員定数の半数以上とありますので、会議は成立することをご報告いたします。

なお、この会議におきましては発言を記録させていただいておりますので、ご了承願います。また、本会議は傍聴することができます。現時点での傍聴者は1名です。傍聴者の皆様は新潟市立図書館協議会の傍聴に関する要項に従って傍聴していただきますようお願い申し上げます。

それでは、改めまして、館長としてごあいさつさせていただきたいと思っております。

本日はお忙しい中、ありがとうございます。この図書館協議会は図書館法によって設置が義務づけられております。お送りした資料の後ろのほうに図書館法についてコピーしたものをつけてあります。第14条、手書きで星印がつけてありますけれども、公立図書館に図書館協議会を置くことができる。その第2項に、図書館協議会は、図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関とするとなっております。亀田図書館の運営につきましては、後ほどお話しさせていただきますけれども、本

日は、どうぞ忌憚のないご意見をお聞かせいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ここからの議事進行につきましては、会長である佐藤委員にお願いいたします。

(会長)

では、議事に入りたいと思います。よろしくお願いいたします。

まず、(1) 報告事項、①平成 26 年度の報告について、事務局から説明をお願いいたします。

(館長)

それでは、平成 26 年度の報告につきましてご説明させていただきます。お送りしました資料 1 をご覧ください。平成 26 年度新潟市全体の統計は上から 3 行目にございます。貸出人数や予約、リクエスト件数は増加していますが、ここ数年、貸出冊数は前年度を残念ながら下回っております。それに反して亀田図書館は表の中ほどにございますけれども、資料 2 と合わせてご覧いただければと思います。蔵書数は昨年度約 6 万 4,000 冊でしたけれども、6,500 冊ほど増えまして 7 万 533 冊となりました。また、登録者数につきましては、平成 25 年度 6,210 人だったものが、平成 26 年度は 1,746 人増加し 7,956 人となりました。資料 2 にあります登録者数はかなり少ない数になっているのですけれども、新規の登録者数となっております。資料 1 の登録者数の中には新規のほか更新、再発行のものが含まれています。

貸出冊数についてです。新津図書館が新築、坂井輪図書館が改築のため閉館しました影響もあり、大幅に増加しました。平成 26 年度は 33 万 5,750 冊で平成 25 年度と比べまして 2 万 5,937 冊の増でした。予約リクエストも 8,700 件ほど増えまして、4 万 6,113 件となっております。資料 2 では、新規登録者数をのぞきすべて平成 25 年度より増となっております。大変多くの方からご利用いただき、ありがたいことだと感謝しています。

資料 3 を見ていただきたいのですが、資料 3 は江南区の地区図書室の利用統計になります。亀田図書館の利用は大変多いのですけれども、逆に地区図書室では、四つある地区図書室すべて利用が減っています。皆さんやはり亀田図書館をご利用いただいているのだと思います。利用統計につきましては以上です。

引き続き、平成 26 年度の事業報告をさせていただきます。資料 4 をご覧ください。ほとんど 3 月にお示ししたとおりでございます。最後、9 番の施設見学視察のところで文字の間違いがございます。下から 3 行目、一般というもので 10 月 27 日月曜日、新潟市立図書館講演会となっておりますが、後援会ですので、文字の訂正をお願いしたいと思います。

戻りまして、資料 4 の 2 ですが、春の読書週間事業で、おはなしのじかんスペシャルを平成 26 年度に新たに実施しました。合計で 34 人の参加があったということと、3 のアスパークまつりも平成 26 年度に初めて参加した事業でございます。4 の夏休み事業では、外国の絵本の読

み聞かせとその国の遊びでは、国際交流協会との共催で実施しました。秋の読書週間行事は大変盛りだくさんですが、すべて好評だったと思います。おはなしのじかんの参加者は62名でした。6がテーマ展示でございます。7、8、9はここに記載のとおりでございます。

資料5をご覧ください。平成26年度の図書館へのたより等市民より寄せられた声ということで、3月にお示ししたとおりでございます。その後は届いておりません。平成25年度18件だったものが平成26年度は5件ということで、かなり少なくなっております。ちなみに今年度はまだ1件も図書館へのたよりはいただいております。平成26年度の報告につきましては以上です。

(会 長)

今の事務局の説明について、質問やご意見があれば挙手をお願いいたします。いかがでしょうか。

よろしいですか。では、引き続き次へ移らせていただきます。②平成27年度計画について、事務局から説明をお願いいたします。

(館 長)

それでは、平成27年度の亀田図書館の運営につきましてご説明させていただきます。資料6の平成27年度亀田図書館の運営方針と主な取り組みをご覧ください。四角に囲みましたところが新潟市全体の方針となっております。

図書館の運営の理念。心豊かな都市（まち）づくりを支える、市民の身近な学びと情報の拠点を目指します。

新潟市の目指す図書館象。1、ネットワークを活かした「課題解決型図書館」。2、特色ある地域づくりに寄与する「分権型図書館」。3、子どもの読書活動を推進する「学・社・民融合型図書館」。4、市民参画と協働を推進する「パートナーシップ型図書館」。

効率的、効果的な運営を目指してということで、1から4まであげてあります。

そこで、亀田図書館としまして、1のネットワークを生かした「課題解決型図書館」を目指すために、身近な生活上の課題解決を手助けするレファレンス（調査・相談）の充実を継続します。季節や時事に即した展示コーナーの充実を継続します。

2、特色ある地域づくりに寄与する「分権型図書館」を目指して、江南区に関する地域資料の積極的な収集を継続し、江南区の情報収集と図書館情報の発信を継続して行います。俳句資料の積極的な整備と収集も継続をいたします。特別コレクション室を活用した展示会・講演会の実施も継続をいたします。下線のものが新規の事業になります。行政書士無料相談会の実施、そしてビジネス支援セミナーの実施です。図書館はあらゆる分野の本を収集し、保存しているところです。行政書士無料相談会では、遺言や相続について行政書士の方と相談するとい

う会でございます。後ほどまたこの会についてはご説明したいと思います。

3、子どもの読書活動を推進する「学・社・民融合型図書館」を目指すために、新規事業が上のほうになってしまいましたので、継続事業を先にお話しします。「おはなしのじかん」実施の継続。読書週間事業実施の継続。公民館や郷土資料館との共催事業実施の継続。ジョブトレや職場体験受け入れの継続でございます。新規事業としまして、子育て支援事業の実施。小学校区ごとの読み聞かせボランティア養成講座の実施を行う予定でございます。子育て支援事業の実施につきましては、具体的には赤ちゃんタイムの実施、そして子育て応援コーナーの設置、そしてブックスタート事業の実施の三つになります。

めくっていただきまして、4、市民参画と協働を推進する「パートナーシップ型図書館」を目指し、図書館協議会定例会の実施を継続します。配架・書架整理ボランティアの受け入れを継続します。公民館や郷土資料館への資料提供や情報提供を継続します。新規の事業としまして、江南区内の高齢者福祉施設へ「団体貸出制度」の利用案内を行います。

そして、効率的、効果的な運営を目指して。1、施設の整備と管理運営につきましては雑誌のリサイクル事業を継続して実施する予定です。

2の資料・情報の収集についてですけれども、今年度、中央図書館での選書会議へ参加しております。実際にその週に出版された本、すべてではないのですけれども、何百点かある中から実際に手に取ってみて、市、全体のバランス等も考えて選書を行うことになっております。

3、図書館広報の充実。広報誌の発行ということで、図書館だより第9号を郵送させていただきました。こちらも今年度継続して行っています。

4、職員研修の充実。各種研修への参加ということで、こちらも継続して行いたいと思います。

具体的な細かな事業計画につきましては、めくっていただきまして、1から書いてございます。すでに終了しているものもございます。1は、おはなしのじかんの定例会です。今年度は4つのボランティア団体の方が参加してくださいました。

2の春の読書週間事業につきましては終了しております。平成26年度、34名のおはなしのじかんへの参加でしたけれども、今年度は42名となっております。

3のアスパークまつりも終了しております。6月7日日曜日おはなしのじかんスペシャルとオリジナルしおりプレゼントを実施しました。おはなしのじかんスペシャルは職員との共催でした。

めくっていただきまして、4の夏休み事業につきましては、去年と同じく外国人による絵本の読み聞かせとその国の遊びということで、こちらも共催事業として今年度も実施いたします。その上のUXアナウンサーによる絵本の読み聞かせが全く新しい事業になります。「体験しよ

う！ 図書館のしごと」につきましては去年と同様、各回2名を予定しております。

5の秋の読書週間事業です。未定の部分が多いのですが、「保存期限の切れた雑誌をお譲りします」を10月25日日曜日、多目的ルーム1、2で実施します。文化講演会につきましては、講師として金森敦子先生を予定しております。期日は11月1日日曜日、多目的ルーム1、2を予定しています。そして、今年度も中学生による俳句作品展示会を実施したいと思います。11月5日から11月26日まで、郷土資料館を会場としております。ボランティアによるおはなしのじかんスペシャルにつきましては未定です。

6のテーマ展示につきましても、5、6月は直木賞受賞作品です。こども図書室のほうはお父さんお母さん。そして特別コレクション室に江南区のいしぶみ散歩、No.46から52を実施しました。

次に、めくっていただいて、プチ展示は年に10回ほど予定しておりますけれども、5月は梅仕事、6月は韓国を実施しました。

7、配架・書架整理ボランティアの受け入れです。毎月第1水曜日に説明会を実施し、実際にボランティアとして活動していただくものです。現在、11名の方が参加されております。

8、体験学習・ジョブトレ受け入れということで、7月7、8日に横越中学校、7月29、30日が両川中学校が予定されております。ジョブトレにつきましては、4月から6月まで1名実施しました。現在も1名が活動中でございます。

9の施設見学・視察受け入れですが、今年度は昨年度に比べると1件あったかないかという感じです。

10番以降、四角で困ってありますところが新規の事業となります。読み聞かせボランティア養成講座ということで、先ほどもお話ししましたように小学校地域における読み聞かせボランティアの養成講座です。7月15日、23日に大淵小学校、9月10日、17日に亀田東小学校を予定しております。

11の赤ちゃんタイムの実施です。毎週水曜日の午前10時から午後1時まで、子ども図書室内を乳幼児を連れた保護者に開放しています。毎月第4水曜日の午前10時30分から11時まで「赤ちゃんタイムおはなしのじかん」としてボランティアの方に読み聞かせをしていただいております。

12の子育て応援コーナーの設置ということで、子ども図書室内に未就学児の子育てに関する本のコーナーを設けてあります。

13のブックスタート事業の実施です。本日配付いたしました資料の中に、「絵本のある子育て、赤ちゃんと一緒に」というのがあると思いますが、ご覧いただければと思います。開いていただいて、右上にブックスタートとはとございます。ブックスタートにつきましてはご存じ

ない方もいらっしゃるしますので、読ませていただきます。絵本を通して赤ちゃんと保護者がゆっくりと心触れ合うひとときを持つきっかけを作る活動です。新潟市では、1歳誕生歯科健診の会場でボランティアによる絵本の読み聞かせを体験してもらうとともに絵本を1冊プレゼントしています。ということで、左のページの一番上にある絵本で親子のふれあいをという、読み聞かせがどんなに大切かということボランティアの方々にお話しをしてもらい、右側のブックスタートでプレゼントする絵本、3冊のうち1冊を選んでもらって実際に読み聞かせを体験してもらい、1冊プレゼントをするという事業です。新潟市全体で行っている事業です。今まで亀田図書館は利用が多いけれども職員数が足りないということで、なかなかこの事業に加わることができなかつたのですけれども、今年度、嘱託職員ですが1名増となり、さらに臨時職員もついたということで、今年度よりブックスタート事業に亀田図書館として参加しております。

次に、14の行政書士無料相談会の実施です。こちらはすでに終了しております。5月19日火曜日、午後1時からの会と午後3時からの会ということで、2組実施いたしました。内容は先ほどもお話ししましたが、遺言、相続などの相談会です。図書館としましては、遺言、相続についての本を集めまして、相談会場に置いておきました。いつでもそれを利用してくださいということで、借りていくこともできますとご紹介しました。

15のビジネス支援セミナーの実施です。9月27日の日曜日午後1時30分から江南区文化会館多目的ルームで実施する予定です。講師はIPCというところから来てもらいまして、ロジカルシンキングというテーマで講演していただく予定です。こちらのビジネス支援セミナーは江南区の産業振興課と亀田図書館とIPCの3者の共催事業となっております。

(事務局)

すみません、先ほどのこちらのパンフレットなのですが、平成24年3月現在になっております。後ろに書いてある亀田図書館の住所が移転前の古い住所になっておりまして、申し訳ございません、現在、茅野山になっております。一緒に入れさせていただいているこちらの利用案内、緑色のものが最新の住所になっております。こちらの開いたところの一番下のところに亀田図書館の住所が記載されておりますので、現在はそちらの住所になっております。申し訳ありませんが、こちらの利用案内に記載されている亀田図書館の情報が最新になっております。開いたところ、右下になりますが、こちらが現在の住所と電話番号になっておりますので、申し訳ありませんがよろしくお願いいたします。

(館長)

では、事業計画についてはおしまいさせていただきます。

続いて、平成27年度亀田図書館当初予算についてお話しさせていただきます。訂正版のほう



をご覧ください。前年度にお配りしたもののの中にあると思います。合計のところを見ますと、前年度に比べまして131万7,000円少なくなっているのを見えますけれども、これはシステムの管理運営のための予算でして、亀田図書館分として割り当てられたものではありませんけれども、中央で所管している金額ということで、亀田図書館としての支払いではないので、今年度から亀田図書館での計上をしないということで、中央へ戻した額です。亀田図書館の予算につきましては、米印の参考を見ていただくと、資料購入費ですが、当年度、1,391万7,000円となっております。昨年度に比べまして6万7,000円少なくなっているのですけれども、前年度とほぼ同じと理解していただければいいのではないかと思います。ほかの中心館では10パーセントほどずつ前年度よりも減らされている中、亀田図書館は新築ということもあり優遇されているほうだと思っております。当初予算につきましては以上です。

以上で平成27年度の説明を終わらせていただきます。

(会 長)

今の事務局の説明に質問やご意見はありますか。

(比企委員)

10番の新規事業の中の読み聞かせボランティア養成講座ですけれども、これは小学校地域における読み聞かせボランティアの育成ということで、大淵小学校と亀田東小学校が予定されています。これは2日間予定されているのですけれども、1回目、2回目シリーズ化として、2回出るのですか。

(館 長)

2回で1セットということで、1回目が基礎講座、2回目が実践講座になります。

(比企委員)

これに出ると読み聞かせのボランティアができるようになるのですか。

(館 長)

してもらうために、最初にお話をさせてもらって、持ち方からお話をさせていただくということです。絵本の選び方とか。

(比企委員)

これが参加できるのはその小学校の地域の方ですか。

(館 長)

小学校区の方に限定させていただいています。

(村山委員)

今のものに関してですけれども、読み聞かせについて、このところにいろいろなお話の会、ボランティア、何とか校区とか石塚委員がやっているものがたくさんありますけれども、前回

のこども未来のここに養成講座を一生懸命やると書いてあります。それで、養成講座というのは聞きたいのだけれども、いろいろなお話の会があって、統一するような、やり方をこうしなさいとか何かそういう養成する講座という意味合いはどういうことなのか聞きたいのです。今、基礎と実践があると言ったので。いろいろなお話の会はみんなやり方が違うのですか。

(館長)

だいたい同じではないかと思うのですが、皆さんそれぞれ中央とかでの講座を受講された方々だと思います。

(村山委員)

ある程度基礎知識は持っていらっしやって同じようなやり方をしているのでしょうか。

(館長)

はい。全く何も分からないところで絵本を選んで子どもたちに読んで聞かせるというのは、自分の子どもとかですと膝に載せて読んであげるというのもいいのですけれども、ある程度的人数の子どもたちを前にして読むということについては技術もそれなりに必要になってくると思います。

(村山委員)

そういう特別な技術やテクニックを教えてくださいませんか。

(館長)

はい。

(村山委員)

今、実際に少ないわけですね。読み聞かせの。

(館長)

亀田図書館では、はい。今年から実施しております赤ちゃんタイムおはなしのじかんは月に1回しかないので、できれば第2水曜日、第3水曜日にお話をしてくださるグループはいたらいいなと思いますし、ほかにブックスタートのところでもボランティアがお話をしてくださるボランティアも必要となっております。

(村山委員)

そうすると、ボランティアを増やそうということとやり方を統一というのか分からないけれども、意思表示を同じようにしようと。テクニックを。そういうところもあるのですね。

(館長)

このようにしてやりますと。しかし、同じことをやったとしても、同じ本を読んだとしても、読む方によって全く違ったりしますので。

ブックスタートについては会長も詳しいと思います。

(会 長)

私も知っています。

私からも質問していいですか。佐藤ですが、大淵小学校の校長先生、これから実施されるのですが、期待されるどころと、今集まっている人数はどのくらいでしょうか。

(捧委員)

今、小学校の中で6名、それから地域のほうから3名出ていますので、いい数字だとは思っています。

あとは、多分、初めての方が多いので、継続してやっていただける形につながっていけばいいなと思っています。例えば、小学校の中の休み時間等でやっていただくとか、朝、うちの学校は読書をしますので、その中の読書の一環として読み聞かせの時間を取るといった形でつながっていくような方向で考えています。

(会 長)

つながるといいですね。

(捧委員)

はい。ぜひ。

(村山委員)

だれでもやれるのですか。やはり話をしなければだめですね。そういうテクニックは必要ですね。

(捧委員)

単純なことを言えば、声の出し方とか。大勢いるので、普通にしゃべっていただけなので。多少届くような声で話をするとか。

(村山委員)

感動を与えるとか。

(捧委員)

そこまでは。ただ、本を見せながらなので、当然、頭の中にストーリーとか言葉を入れておいて、ちらっと見て向かって話すとか、練習しないとできない部分があります。

(村山委員)

普通の人でもそういうポイントをつかめばできるわけですか。

(捧委員)

そうだと思います。

(村山委員)

ほとんど女の人なのですか。

(捧委員)

まだ私は性別は見えていないのですけれども、多分、女性の方が多いような気がします。

(村山委員)

先日、脇さんの、あれは万代に行ったときにほとんど、女の人が多かったのです。

(捧委員)

そうですね、おっしゃるとおりです。

(館長)

ブックスタートで本に親しむ環境がスタートして、未就学児のところで読み聞かせに参加するというので、また本に親しむ、小学校に行って小学校の図書館を中心にボランティアの方々からも読み聞かせをしてもらって、また本に親しむということで、成長とともに本に親しむ生活が続いていくのであればいいのではないかと思います。

(村山委員)

なぜ日本人が考えなかったのだろうか。イギリス人でしたか。

話は違うのですけれども、いいですか。新潟市の図書館像にネットワークを生かしたところにレファレンスという言葉が書いてありますけれども、レファレンスの中身はどんなものが多いのですか。参考に教えてくださいませんか。

(館長)

実際の相談の中身ですか。調査とか。

(村山委員)

私は図書館のレファレンスというと本の紹介だとかそのようなことばかり考えていたのだけれども、よく考えると、生活を支援するためのレファレンスとか書いてありますよね。図書館ビジョンには、レファレンスの内容は暮らしの生活をよりよくするためのレファレンス、相談を図書館がやるのだと。私は本ばかり、この本はどこにあるのでしょうかとか、この人はどうい本を書いてある、そういう本にかかわることばかりなのかなと思っていたのです。最後にこの2の中に行政書士無料相談会の実施と書いてあるから、暮らしの相談のレファレンスにするというのはどういうことを聞いているのかなと。

(館長)

例えば、自分が病気というか心配な症状があつて、これはどういった病気なのか少し本を見たいとかというのもあったりします。

(村山委員)

そういうものはけっこう多いのですか。私はあくまで本に関するレファレンス、この本はどこにあるのか、どういう作家がどういう本を書いているのかという本に関する案内ばかりかな

と思ったのだけれども。

(館 長)

具体的に本の名前が分かっている方ばかりではないです。

(村山委員)

いや、分かります。そういうことは聞きますよね。

(館 長)

はい。それで、最終的には図書館の資料などを提供できるように。

(村山委員)

新潟市が言うには、人間が生きるための人生相談みたいな、よろず相談みたいなレファレンスなのかなと。それで、実際の内容がどういうことなのかと思って。

(館 長)

すみません、人生相談までは受けることはできないですが、あくまで資料をご提供するところまでです。

ここであったわけではないですけども、前にいたところでは長岡市の蒼柴神社の初代の人  
の写真が見たいということがありました。それで、あちこち調べて長岡の郷土資料館に電話して。

(村山委員)

それは割と図書に近いですよ。

(館 長)

図書はないです。実際には図書はなかったです。

それで、そこまで行って写真を撮らせてもらわないと見られないというものだったのですけれども、秘伝だったので写真はだめでした。結局ご提供できないということでしたけれども、そういったこともあります。

(村山委員)

そうですね。分かったような分からないような。けっこうです。

(館 長)

何かありますか。

(小松原)

あとは、いわゆる事実について問い合わせがあったということもありました。昔の話なのですけれども、上越のほうに自衛隊の駐屯地があって、その中に博物館があるということについてお調べになった方がいらっちゃって、よくよく調べてみたらそこのところに連隊長とか、ずっとそこの長をしていた方の歴代の、実際に使った物、服とか軍刀などを集めた、実際に小さ

な資料館が上越市の駐屯地の中にあるということが分かりましたので、あとは住所と連絡先などを調べてお話したということもありました。明確に分かっているような事実調査ということも、文献をもとにしてということもありますし、それ以外にインターネットでデータベース、新聞記事とかそういったものを含めた情報もありますので、そういったものを使って調べをして事実を確認するというのもしております。

ただ、やはり専門家でないと回答できないような、鑑定ですとか法律相談などに関しましてはその窓口をご紹介するところまでで止めております。これは図書館としてはそこまで調べる方針が一応全国的にあるものですので、一定のラインまではご相談に乗るのですけれども、それ以上踏み込めない専門的な領域というのはやはりございます。

(村山委員)

もう一ついいですか。すみません、私ばかりで。

2番の特色ある地域づくりに寄与するのところに、1番目と2番目の二つの点の情報はどう違うのか教えてほしいのです。江南区に関する地域資料と江南区の情報というのはどう違うのですか。どういうことをやるのですか。どういう情報ですか。

(館長)

同じです。江南区に関する資料、梅仕事であるとか。

(村山委員)

それは地域資料。

(館長)

地域資料を今度は発信するというのもやっています。

(村山委員)

2番目の情報の収集というのは。

(館長)

具体的には、俳句関係資料です。

(村山委員)

下が俳句なのですか。何かどちらも同じような感じが。分かりました。

(館長)

これから夏休みになりますと、地域のことを調べるというので、岩万燈について知りたいとか亀田縞について知りたいとかたくさん問い合わせがありますので、そういったものについての資料も収集しています。

(村山委員)

それは地域資料。

(館 長)

地域資料です。

(会 長)

平成 27 年度の計画についてのご質問、ご意見がなければ次に移らせていただきます。

続きまして、(2) 協議事項に移りたいと思います。事務局から何かありますでしょうか。

(館 長)

郵送させていただきました資料の後ろのほうに A 3 判の新潟市立図書館整備及び運営の方針(概要) とその一枚前に A 4 判の江南区の図書館登録率向上についてをご覧いただきたいと思います。江南区の図書館登録率向上につきましては昨年度の第 2 回協議会でも議題に上げさせていただきまして、皆様方から大変多くのご意見をちょうだいいたしました。主な意見をまとめまして、今年度は白丸四つの事業を実施したいと考えております。

概要版をご覧いただいてよろしいでしょうか。一番後ろになるかと思えます。こちらは新潟市全体の図書館の状況と今後の方針について記したものになります。ここにあります九つの表の中で唯一右上にあります施設延床面積 1 m<sup>2</sup> 当たり貸出数というのが江南区は 3 番目に多いということで、あと、ほかはすべてほぼ最下位という状況になっております。これは圧倒的に施設数が少ないということだと思っております。江南区には亀田図書館しかない。ほかのところは分館等いくつも図書館があるのですけれども、江南区はここしかないということに起因していると思います。地区図書室をオンライン化するとか、新しくコミュニティセンターができるときに図書館の機能を入れてもらうということをしないう限りはなかなか改善していかない問題だと思っております。今年度中に何とかなるというものではないのですけれども、できるだけ多くの方々に登録いただいて図書館を利用していただきたいと思っています。

それで、今日お配りしました新潟市立亀田図書館、こちらが亀田図書館のパンフレットになっております。開いていただくと、新潟市立図書館の貸出カードをお持ちですかというものを挟めてあります。下のほうが貸出申込書となっております、これを挟めた状態で亀田の駅やショッピングモールなどあちこちに置かせてもらおうと思っております。

二つ目の丸になるわけですが、選書会議、今年度から参加しておりますけれども、選書会議に参加することで魅力ある蔵書構築に努めたいと思っております。

三つ目の丸は、「この本 だいすき！」など、子どもたちから本を紹介してもらったものを常に子ども図書室内に置いておいて本を選ぶときの参考にしてもらう、大人向きには「この本おすすめ！」というものが記載台のところにあるのですけれども、なかなか、お一人の方しか出していないので、もう少し PR に努めたいと思います。何か本を選ぶときの参考にさせていただきたいと思っております。

施設見学者に図書館案内のほか、貸出申込用紙も配布するというので、こちらも施設見学者は今年は少ないのですけれども、もしあった場合には貸出申込用紙も配布したいと思っております。

そのほか、何か皆様方からさらにご意見等いただけたらありがたいと思います。

(会 長)

今、館長からも言われましたけれども、皆様のご意見があれば、述べたい方はいらっしゃいませんか。

(柳委員)

質問が二つなのですが、まず、登録率、この申込用紙を亀田図書館で申し込むと亀田図書館の登録率に加えられるのですか。

(館 長)

そうです。

(柳委員)

では、その申込用紙を出した図書館の登録という形でカウントされるということですね。

それから、中学生以下は保護者の承認が必要ということで、枠外に保護者の名前を書くようになっていますが、中学生以下も自分の現住所を証明する保険証とかそういうものの提示が必要になるのですか。一般の方はカードを受け取る時に現住所を確認できる免許証とか保険証が必要とありますが、小中学生の場合はどうなるのですか。

(館 長)

中学生の場合は生徒手帳があると思いますけれども、そこに住所を書く欄があれば、その生徒手帳で住所確認をすることができます。

(柳委員)

では、やはり何か現住所を証明するようなものが必要ということですね。

(館 長)

はい。

(柳委員)

分かりました。

(館 長)

郵便物でもいいということになっております。第三者が確かにこの人はここに住んでいるということが証明されるものということです。

(会 長)

佐藤からいいですか。



前回お話ししていたときに、学校単位で申し込みを取ってという場合、学校単位だと学校側が住所を確認しているわけなので、それならお受けできるのでしょうか。

(館長)

はい。昨年度、小学校、中学校もですけれども、学校単位でのカードの作成という事業を行いました。これは新潟市全体で行ったのですけれども、届けに行ってもらってきて作成してまた返してという、なかなかいろいろな手間がかかるのですけれども、その手間がかかる割には作成してもらう数が大変少なかったのです。江南区だけで54枚だったと思うので、これでは効果的な手立てとは言いにくいと思うところで、今年度は学校を通してのカード作成はお願いしませんでした。

(会長)

強制的にみんなが入るということではなかったのですね。

(館長)

なかったです。希望の方だけです。

(会長)

希望のことだったのですね。

お声が聞こえない服部委員、いかがですか。

(服部委員)

すみません、特にないです。

(会長)

では、もしいいアイデアがあれば、また館長にお伝えしてください。

次に、議事の(3)その他について、事務局からお願いしたいと思います。

(館長)

資料8の評価シートについてです。昨年度も平成25年度の事業につきまして評価いただきました。今年度は平成26年度の事業につきまして評価いただきたいと思います。シートナンバー1と2がございまして、こちらは郵送しております。

それで、大変申し訳ございません、資料8とナンバーが振ってあるものですが、昨年のもをそのままコピーして印刷して送ってしまいましたので、年度がみんな違っております。一つずつ足していただければと思います。

シートの説明及び書き方について、資料8と振ってあるものについて書いてありますので、お読みいただいて去年と同様に評価いただきたいと思います。去年と違いまして、提出用の用紙もご用意いたしましたので、提出用のほうをこちらにお出しいただければと思います。本日もご提出いただいてもけっこうですし、後日郵送していただいてもかまいません。本日もお配りし

た茶封筒の中に返信用の封筒も入れてあります。もちろん、ご来館いただいて渡していただいても大丈夫です。締め切りの期日なのですけれども、こちらで勝手に締め切らせていただきますが、8月4日火曜日までにご提出いただきたいと思います。

(村山委員)

これについて質問してもいいですか。

このシートNo.1とNo.2に対して、No.2は評点という、自己評価で採点1から4までの自己評価をしているのだけれども、No.1についての自己評価は文章だけが書いてあるのです。1から4とか書かないのですか。

(館長)

事業ですので、シートNo.2のほうは数的な統計ですので評点がつけやすいですけれども。

(村山委員)

2枚目の図書館運営については評点がついていません。2枚目の資料購入費、蔵書冊数、貸出冊数、登録者数、内新規登録者数についての評点はないですね。

(館長)

運営についてですね。はい。

(村山委員)

数字は登録者数以外はいいので4だとは思うのだけれども。

(館長)

登録者数以外はいいのですけれども、シート1については事業が主なので、点数での評価ではなく、自己評価も文章で評価しています。

(村山委員)

文章が1か4かの自己評価が分からないのです。我々に丸投げしたような感じで。例えば、レファレンスサービスの自己評価、平成25年より144件増加したことはよかったと書いてあるのだけれども、自己評価で1から4、No.2に対しては1から4の自己評価をしているので、文章がよかったということは4なのか3なのか2なのか、私は判断が分からないのですけれども、文章だけ書いてあるといいことが書いてあることはみんな大変評価するということで、外部評価の我々は1に丸をつけたほうがいいのか。自己評価していないので。

(館長)

シート1についても自己評価を点数で評点を表したほうがいいのかということですね。

(村山委員)

文章で書くと4なのか3なのか分からないですね。我々に1から3まで三つの内一つを選べと言っているわけですね。

(館 長)

そうです。

(村山委員)

この文章だけだと、皆さんの自己評価が1から4までなのか、1から3でもいいですけども1から3なのか。私はこれに丸をつけるときにどうすればいいのかなど。いいことに書いてあったものはみんないいことにしてしまったのだけれども。

(館 長)

ありがとうございます。

この様式は図書館全体で使っているシートなので、村山委員から、自己評価シート1についても評点を自己評価のところで入れたほうが良いというご意見があったということで伝えます。

(村山委員)

判断するのに文章を見て、1か3なのか分からないと私は思ったのですが、皆さんがどう思うか。

(館 長)

今のところはそういうご意見があるという話は聞こえてこないのですけれども。

(村山委員)

ないですか。すみません。私の判断基準が、この文章を読んでこの文章を読んで左右されたもので。難しかったものが一つだけあって、あとはみんないいことばかりが書いてあります。だから評価は1か2ですよね。

(館 長)

自己評価のみではなく、事業の概要、結果もお読みいただいてご判断ください。

(村山委員)

それはそれでいいですけども。結局、ここの学・社・民融合型図書館の館の重点評価項目、中央図書館と協力して実施したというところで自己評価、限られた職員での対応は難しかった、これがまずいという。結局、私も判断できなくて評価できないにしまったのです。それでいいのか私は分かりません。

(館 長)

評価できないというのは評価不能ということではなくて、評価できないということでいいですか。

(村山委員)

人間がいなかったということですよ。

(館 長)

すみません、難しいご判断で。

(村山委員)

私はそれに判断が左右されるなと思って、どうかと思ったのです。

(館長)

そういうご意見があるということは会のときに伝えますので、今年度は曲げてこれをお願いします。

(村山委員)

だから私はここは評価できないにしてしまったのです。すみません。

(館長)

いえいえ。評価できないという評価ですよ。

(柳委員)

質問してよろしいでしょうか。

私も江南区に来て日が浅いので単純な質問なのですが、昨年度の集計の数値を見ると、亀田図書館は非常に頑張ったのではないですか。どうしてそんなに数値がよくなったのかというところを、おおざっぱでもいいですので、館長から思いつくようなこととお話いただけると勉強になるので、お願いします。

(館長)

まず第1に、隣の秋葉区の新津図書館が新築移転のために3か月ほど閉館になりました。そして西区の坂井輪図書館が改築のために4か月くらい閉館だったということで、新津の方々が亀田図書館を利用してくださったり、西区の方々が亀田図書館を利用してくださったりということが一番大きかったのではないかと思います。あと、地区図書室を利用していた人がオンラインでいろいろなところから本を取り寄せてもらうことができるとか、AV資料、CDやDVDも亀田図書館なら借りることができるということで、地区図書室を利用していた方々が亀田図書館を利用するようになったということもあります。

(柳委員)

オンラインの利用もけっこう多かったのですか。

(館長)

オンラインの利用というか、亀田図書館はオンライン化されているので、新潟市立図書館とコンピューターでつながっていて、うちになくてもよそにあれば取り寄せることができるということです。地区図書室はコンピューターがつながっていませんので、その図書館になればそこでは借りられないことになるので、便利さからいうと亀田図書館に行こうということになったのだと思います。

(柳委員)

新潟市内のど真ん中にあるというのもけっこういいのでしょうか。

(館長)

それも大きいと思います。西区から来る方もいらっしゃいます。

(柳委員)

ありがとうございました。

(村山委員)

今、曾野木、横越地区図書館はオンラインがないのですか。全くなかったですか。

(館長)

ないです。地区図書室がオンライン化されると、また。

(村山委員)

ただ、私が言いたいことは、旧図書館のときからの読者がいるわけです。こちらに来ましたよね。車がない人もけっこういるので、そういう人の反発もけっこうあることはあるので、それを一つ。非常に数字がいいことは分かります。登録者数が少ない。CD、AVもみんなすごいですし、素晴らしいと思うのだけれども、登録者数がどうなのか。

(館長)

住宅地からも少し離れていますので。少しお話もしましたけれども、新しくコミュニティセンターなどができるときには、ぜひとも図書館機能を入れていく要望を出していただけるとありがたいと思います。

(会長)

佐藤です。

この前の18日のお話会のときに、割と小学生の姿が多かったので、小学生の来られるという。前は大人に連れられた小さい子どもが多かったようだったのですが、小中学生の姿が見られたので、もしかしたら武道場やアスパークで何かがあったのか、それとも学習室が開かれているのか、図書館に子どもの数が増えた理由は何か考えられますか。

(館長)

学校で亀田図書館を宣伝してくださっているというのもあるのかもしれないのですけれども。

(会長)

特に貸出数が増えているというわけではなかったのですか。小学生、中学生。

(館長)

はい。

(会長)

友達と連れ立って公民館内を歩く姿がけっこう見えて、中で勉強している姿があったので、ドリルですけれども、本を借りていないから図書館の数字には出ないけれども、来ることが増えたのかなと思って。

(館長)

中学生や高校生のテストのときには、多く来館します。

(村山委員)

村山です。

新潟市立図書館整備及び運営の方針というものが最後にありましたけれども、この中で、今後の方針の中で施設面の地域較差縮小、その中で市街地（行政施設、交通拠点など）へのサービス拠点の設置ということはどういうことなのか聞きたいし、前に私はしゃべったことがあるのですけれども、亀田駅に本を返す場所を作ってほしいとか、これは旧亀田市街のことばかり言って申し訳ないのですけれども、旧役場のところにコミュニティセンターができたから、ああいうところに返すと町のど真ん中の人たちはうれしいなと思っています。そういうサービスを設置するということなのですか。あるいはそういう方向になるのですか。

(館長)

チャンスがあればそういうことも。

(村山委員)

亀田図書館の場合、何でも人手ばかり言うので。

(館長)

そうなのです。お金も絡むことですので、もし、お金もそうかからず。

(村山委員)

サービス拠点を置いておくというのは分かるのだけれども。

(館長)

地域からの要望があって双方の条件が合えば整備していきたいということです。

(村山委員)

亀田図書館は、今、登録者数が少ないというのが一番ネックなわけですよ。あとはみんなバラ色です、はっきり言って。とても発展途上です。設備は小さいけれどもとても回転がいいし、少ない冊数でたくさん借りています。頑張っています。登録者数を増やすというのは、利用する。

私も昔、旧新潟市の沼垂図書館をよく使っていたのだけれども、亀田図書館が住んでいる近くにあるのに沼垂図書館を使っていました。まず、本がたくさんあるということと通勤途中だったからです。自分の近くにこういういい図書館があれば、ここに来ますよね。来なかったの

で。登録者数を呼び戻すためには、もう少しこういうサービス拠点を何とかしたほうが。

(館 長)

そうですね。

(村山委員)

多分、郊外の区の人たちはみんな新潟に通っていると思うのです。豊栄地区の人は北区の図書館ではなくて、どこかで本を借りていると思うのです。

(館 長)

通勤している人たちのほかにも、高齢者の方とか、なかなかバスや交通手段のない方々も多くいらっしゃいますので、そういった方々にも利用してもらいたいという気持ちは大変大きいのですが、そういうサービス拠点をどのように作っていったらいいかということになると思います。やはり、地元の声、ここに作ってくださいという声がないとなかなか話は進まないのです。

(村山委員)

ほんぼーとでいろいろな図書館の人が集まって話をするではないですか、講演を聴いて。2年前に、ある図書館の人、その人は亀田町出身者なのだけれどもほんぼーとの友の会の役員でしょうか、やっているのです。その人が言うには、私は新潟に本を借りに行っているのだけれども、亀田図書館から借りて亀田駅に返せるといいよねと言う人がいるのです。サービス拠点を、ここだけではなくてほかに。亀田駅とは言わないけれども。

(館 長)

江南区にはここしか図書館がないということが問題だと思っています。

(村山委員)

いろいろなところで行政施設があると思うので、その辺りは利用できませんか。

(館 長)

やはり地元の要望が優先です。

(会 長)

今ほど、平成26年度新潟市図書館指標別事業評価シートについて報告していただきましたが、ほかになければ本日の議事を終了したいと思います。よろしいでしょうか。

では、進行を事務局へお返しします。

(司 会)

本日は、ありがとうございました。次回は3月2日の第1水曜日です。時間も今日と同じく1時半から、ここの会場となっております。

これで平成27年度第1回新潟市立亀田図書館協議会を終了します。ありがとうございました。